

平成28年度中間市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成28年10月25日(火) 14時00分
- 2 場 所 市庁舎 本館 第一委員会室
- 3 構 成 員 松下市長 河本教育委員長 中尾教育委員
衛藤教育委員 齊田教育委員 増田教育長
- 4 事 務 局 濱田教育部長 藤崎総合政策部長
田中教育総務課長 片平学校教育課長
古賀生涯学習課長 小林教育総務課総務係長
谷口教育総務課総務係
- 5 傍 聴 人 3人

6 会議次第

1 開 会

- (1) 市長あいさつ
- (2) 教育委員長あいさつ

2 議 事

- (1) 平成28年度新規事業進捗状況について
- (2) その他

3 閉 会

<配布資料>

- ・平成28年度事業進捗状況報告書
- ・平成29年度新規事業(案)
- ・学校教育重点目標
- ・社会教育重点目標
- ・平成28年度当初予算内訳
- ・児童・生徒数
- ・教育大綱
- ・総合教育会議設置要綱

[開会時刻：14時00分]

濱田教育部長

では、定刻少し前ですが、皆さんおそろいですので、只今から平成28年度中間市総合教育会議を開催致します。どうぞよろしくお願い致します。
それでは、会議次第により、会議を進めさせていただきます。
まず、最初に松下市長よりご挨拶をいただきます。

松下市長

はい。どうも皆さんこんにちは。本日の総合教育会議開催にあたりまして皆様方大変忙しい中、ご参集賜りまして本当にありがとうございました。皆様方には日頃より教育の充実、発展等に大変なご尽力賜っておりまして感謝申し上げる次第でございます。私どもは子どもの健やかな、また、幸せな成長を願うわけでございまして、少しでもそういうあたりに力を入れようということで、私どもががんばっているところではございます。中間市の人口も減ってきておりまして、教育に力を入れれば人口も増えてくるのではないかという面も考えながら色々なことをやっているわけですが、なかなかそういう面では思うようにいかないというのが現状でございます。教育が一番手っ取り早いのかなというような思いで教育関係の整備等を進めてきて、また子育て支援等々にも力を入れてきておりますが、私が思うよりはなかなか若い方の人口が増えてこない。急激な減少というのはないのですが、増えていないというのが現状でございます。これは人口が増えないと国の交付税等にも影響があります。いろいろなところに影響がございまして、私自身ももう少しがんばらないといけないのかなという思いでございます。大変厳しい状況にございますけども、中間市の子どもさん含めてみんな元気でございます。今まさに秋、スポーツの秋、文化の秋です。また、体育の秋でございまして、いろいろな分野で子どもさん達は本当ががんばっておられます。少しでも私もご支援したくがんばっておりますので、どうぞ今後ともみなさんよろしくお願い申し上げます。今日は本当にありがとうございました。

濱田教育部長

ありがとうございました。続きまして、教育委員長の挨拶を河本委員長お願いいたします。

河本委員長

みなさん、こんにちは。非常に長引く残暑を経て、秋らしい肌寒い季節となつてまいりました。本日第4回目の総合教育会議を、市長の大変お忙しい中開催していただきましてありがとうございます。
松下市長には日頃から教育向上に対するご協力を頂き、非常に厳しい財

政の中、多大なる予算などのご支援を頂いておりますことに心より感謝いたしております。そして、前回の総合教育会議で私どもの意見の意義を受け入れてくださることにより、英語教育推進にも取組ませていただくことができるようになりました。そのことにも改めて感謝申し上げます。

私どもといたしましても、教育を向上させることにより、中間市がますます発展するよう協力していかなければならないと考えております。この総合教育会議に関しましては、以前にも述べましたが、さまざまな懸念の声があがっておりますが、中間市では非常に意義のある会議となっておりますことを大変うれしく思っております。それでは、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

濱田教育部長

委員長ありがとうございました。それではこれより議事に入らせていただきます。議事は、中間市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により市長に進めていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

松下市長

それでは規定によりまして、議事進行をさせていただきます。早速でございますが、議題の（1）でございます。平成28年度新規事業進捗状況についての説明をお願いいたします。

増田教育長

はい。市長。

松下市長

はい。どうぞ。

増田教育長

2年目になります、教育総合会議でございます。教育委員会では昨年策定いたしました中間市教育大綱を基本に据えまして、お手元に資料をつけておりますけれども、学校教育では国や県の教育方針をうけまして、中間市の学校教育の重点目標として、「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「特別支援教育の充実」「信頼される学校づくり」と5つの柱を設けまして、学校教育の充実に取組んでいるところでございます。また、生涯学習では、今年の3月に策定いたしました、これもお手元にお配りしておりますが、中間市生涯学習基本計画を基にしまして、社会教育の重点目標といたしまして、「生涯学習のまちづくり」「青少年の健全育成」「文化・スポーツの普及・振興」等に関する社会教育の重点目標を設けて、生涯学習の推進に取り組んでいるところでございます。平成28年度に実施しました新規事業を含めまして各課長から報告させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

田中教育総務
課長

はい。説明させていただきます。まず、教育総務課でございます。事業といたしましては、学校施設整備事業のトイレ改修でございます。

小中学校の老朽化した和式トイレを、衛生的で明るい様式トイレに改修する工事を、平成28年度から平成31年度にかけて実施するものでございます。

事業の内容といたしましては、今年度に平成29年度の建築計画を提出いたします。平成29年度には小学校3校の工事を、平成30年度には6校のうち残り3校の工事を、平成31年度には中学校4校の工事をする計画としております。

本年度の事業実績といたしましては、平成29年度工事予定の小学校3校分、中間北小学校、中間東小学校、中間南小学校の実設計画を行うとともに、国へ補助金の建築計画を提出しております。先週でございますが、この29年度建築計画分の事業につきましては、国の補正予算に対応し事業の前倒しを行うということで、補助金の内定をいただいているところでございます。今後といたしましては、3月補正予算で工事費を計上させていただき、予算を繰越しまして平成29年度に実施させていただきたいと考えております。以上でございます。

片平学校教育
課長

はい。続きまして、学校教育課から報告させていただきます。まず、英語教育推進事業でございますが、ALTを1名増員していただき、4名で6小学校、4中学校を対応することができております。

小学校、中学校ともALTを活用した授業時数が増えております。特に、小学校に対しては、決まった曜日に派遣することができるようになりました。また、小学校における学級担任の英語教育に関する意識も高まりつつありますし、指導力向上につながっています。今後は、聞く、話すことに加え、読む、書くことについても充実した授業が行えるようになります。さらには、モジュール、短時間の授業を取り入れるなど、活用の幅も広がり、工夫した授業が行えるようになっております。中学生に対しましては、日常の会話を、英語を使って行うなど、日常で英語に触れる機会が随分増えておりますし、英語に興味関心を持つ生徒が増えてきております。

続きまして、学力アップ推進事業でございます。全国学力学習状況調査ですが、全国の分につきましては、小学校6年生、中学校3年生で実施しておりますが、これに対して中間市独自で小学校3、4、5年生、中学校1、2年生を対象とした学力テストを行っております。

このことにより、活用力をはかる問題に慣れさせることができるようになりました。また、児童・生徒個人個人の伸びを知ることができ、個人内評

古賀生涯学習
課長

価もできるようになっております。さらに、先生方の指導力の改善につながっておりますし、学校全体で学力向上についての組織的な取り組みができるようになってきているところでございます。以上でございます。

はい。それでは、なかまっ子放課後イングリッシュスクール事業の進捗状況をご報告いたします。グローバル化に伴い、小学校から英語や英語文字に慣れ親しむという目的で開始しております。

現在、参加を希望する小学5、6年生の児童を対象に、各小学校で週1回、放課後45分程度で実施しております。現在、受講生は247名で、1クラス35名の定数を満たしております。これからも随時参加を受け入れていきます。今まで各学校とも6回の授業を終え、先日、第1回目の検証委員会を実施いたしました。

評価といたしましては、生徒の満足度はいかがなものなのか、ただ「おもしろかった」「楽しかった」だけではなく、「英語が聞き取れた」「英語で回答することが出来た」など自分のスキルアップが実感できる授業であったのかどうか、また、発音を正確に聞き取れることなどを重点とした授業になっているかどうかということが挙げられました。課題はあるものの、どのクラスも子どもたちは活気があり、英会話に慣れ親しんでいく姿が見受けられております。

また、チャレンジ英検補助事業につきましては、10月に行われました英検には39名の受講生がありました。結果はまだ報告がきておりません。

なお、この事業は当初、単費でスタートしておりましたが、県から放課後対策としてはすばらしい事業と評価をうけ、放課後子ども教室事業としての補助金を受けられるようになり、12月補正予算で計上しております。

次に、イングリッシュキャンプ事業についてご報告いたします。夏休みの期間中に、全小学校5、6年生の希望者を対象とした生活の中での英会話を学ぼうとする目的でキャンプを実施いたしました。場所は遠賀町ふれあいの里、31名が対象となっております。職員は13名で対応いたしました。全体としましては、第1回目でございますので、授業のような内容が結構多くなり、キャンプとしては少し重すぎたようだったという報告がありました。児童からもおもしろいことをもっとたくさんしてほしいということがありましたが、アンケートをみると、それなりに満足度の高い、初めての試みとしては成功だったと思います。次年度からは、生活用語をもっと増やし、英語授業との差別化を図るような計画を実施していきたいと思います。

次に、「中間市ひと・まち・みらいスポーツ健康フェスタ！」事業でござ

います。本年度は、講演などを取り入れたフェスタは実施しておりません。この中では、親子3世代が健康増進を目的とした、幅広い世代で楽しめるアジャタ、玉入れ競技を、平成28年10月9日に開催されました中間スポーツフェスタ、体育協会の委託事業でございましたが、ここで実施しております。

次に、「日本体育大学出身アスリートによるスポーツ研修会」です。今年度の予定としまして、1月になるかと思いますが、各中学校からの要望を聞いたところ、バスケットボールの要望がありましたことから、日本体育大学の方へバスケットボールの指導者を3～5名程度派遣してもらい、市内4中学校のバスケットボール部の生徒を対象に実技指導を行ってもらう予定としております。

最後に、中間市歴史民俗資料館台帳作成事業でございます。資料作成と台帳作成を平成28年度から3年計画で実施しております。今年度から市史編纂資料の整理およびスキヤニングを実施して、図書館の検索システム等を利用し、市民がいつでも資料を閲覧できるようにしていきたいと思っております。以上でございます。

松下市長

只今、事務局から新規事業の進捗状況の説明がございました。委員のみなさまで、何か質問、ご意見等あれば、賜りたいと思っております。それでは、最初の事業から。トイレ改修について補助率は1/3かね。

田中教育総務
課長

はい。1/3でございます。

松下市長

1/3の補助率で補正予算を使うことによつての特典はあるのか。

田中教育総務
課長

はい。特典は、補正予算の方が有利な財政措置がもらえるようになっております。

松下市長

随分前に、学校のトイレの改修を継続的にしてきた経緯がございまして、私自身は学校のトイレ改修は済んでいるという認識がありました。現実はまだ済んでいなかったため、子どもさんのトイレ問題解消に向けより快適なトイレ環境をつくらうということでやっております。今、男子便所も個室にしたらどうかみたいな動きもあつて、考えられないような状況下になっております。男子も女子トイレと同じように全部個室にといった動きがございまして。現在トイレを改修するのに、そこまでの対応はできないとは思いますが、少しでも状況を良くしようということで考えております。そ

して、内諾の段階ではございますけれども、補助金が頂けるという状況にございまして、28年度事業ですが現実事業をするのは29年度ということでございます。

次に、中学生が使える英語プロジェクトということで、これも今までALTが3人しかおりませんで、今回1名増員いたしております。中学校4校ございますので、バランスよく派遣できるという状況下にございます。大いにALTを使って、使う英語というのをアップさせていただきたいと思っております。何かございましたらどうぞ。

衛藤委員

はい。これに関係することではありませんが、市長が先ほど学校教育に対して非常に力をいれてあるというご説明がありました、まさにそのことがこういう形で現れてきているのだらうと思います。私はこういう事業は大変すばらしいことと思うのですが、残念ながら、保護者の方がほとんどこういう事業が行われていることをご存じないと。だから、せっかく市長がすばらしいことをされてもですね、その事業を保護者にどういうふうに発信するのかということがなければ、結局、保護者は何も知らないで、早く教えてもらえたらよかったのにということになります。広報紙には年1回載りますよね。それだけでは親が多分見逃してしまうと思います。ですから、学校が今それぞれ学校だよりを出しているの、地域の回覧板を通して、一緒に配布してもらえば、地域に回るのではないかと思います。何か保護者や地域の人達に中間市がやっていること、先進的なことをやっているだという発信をしていただければと思っております。

松下市長

はい。ありがとうございます。

次は、学力アップ推進事業ということでございます。これも少し試験等々に慣れさせるという意味も含めて、また、勉強するというきっかけになればということで、このような事業を実施しております。どうしても、あまり公表はされておきませんが、このあたりの学力というのはやはり全国より、福岡県下全体ですが、低い状況下にありますので、少しでも学力を上げたいということです。ただ単に、テクニックの問題であったりとか、さまざま個別の事情がありますからですね。そういうのも少しずつ改善しながら、やはりその評価というのは、やはりこういうところで見られますので、先生たちもがんばっていただいているという状況にございます。取組みをしっかりしていただいて。

次に、イングリッシュスクール事業、放課後イングリッシュスクール事業、これもですね、英語ではなく日本語をしっかり教えたらどうかという

話もいろいろあるわけですが、ご意見としてですね。それはそれ、これはこれという話ですね。英語にしろ、何にしろ、本人がやる気さえあれば、いろいろなところで勉強ができるのです。なぜわざわざこういうことをしないとイケないのかという話もあるが、私も含めて、なかなか自主的に勉強するっていうのは難しい面がありますので、こういう流れをつくれればということでございます。これは英語力のアップも含めて、もう一つは子どもの貧困の話がございまして。要するに、家庭が貧困な中で塾にも行けないという子がいるわけですから、英語力のアップ、これは当然グローバル化の中で英語は絶対必要条件で、そういうなかで少しでもという思いと、もう1つは、貧困の子どもに対する手当て、これも半分はあるんですよ、私の思いとしてはですね。この事業は500万くらいお金がかかっているのかな。

古賀生涯学習
課長
松下市長

はい。年間委託料で。

途中からだから、このくらいの金額になろうと思う。できれば英語だけでなく、数学でも国語でもいいわけ、放課後で。今地域で子どもの貧困対策で、子ども食堂をつくったりという話があるのですが、食が一番かもしれないませんが、こういう勉強においても子ども対策も兼ねて私の思いからやっているということでございます。ですから、英語だからやる、そうではなく、数学でも国語でも将来予算的に余裕があればしてもいいのではないかという思いはありますが、とりあえず英語ということでやらせていただいております。今、校区まちづくり協議会といって、それぞれの校区でいろいろなことをやろうという組織が大体今年度でできあがるのですが、そのような中で今、中間校区では寺子屋をやろうと。宿題を地域でちゃんと面倒みようということ。そうすることによって、子どもが集まり出して、また、それにお年寄りが参加したりとか、いろいろ将来的に膨らんでいくことを考えていただいております。中間校区では寺子屋を、他の地区や自治体を見に行ったり今されておまして、そういうことができれば、違った子ども対策、そういうのもできるのではないかという思いがあります。

増田教育長

市長、この事業につきましては、当初は英語等の単一の事業でしたら県が補助金を出さないということでしたが、マスコミ等での紹介を受け、それを県が非常に良い事業だと認定し、それで補助の対象にするということで補助金がつくことになりました。

松下市長

そうですね。ありがたいですね。

増田教育長

当初は参加が200人くらいだったのですが、だんだん増えてまして、今247名となっております。今、中間の小学校の塾に行っている子どもたちが、5年生6年生で20%から学校によっては30%くらいいます。それで、週1回、このイングリッシュスクールに放課後だすだけでも、なかなか難しいところがあるのですが、だんだん理解してもらい増えてきているところです。良いことだなと思っております。

松下市長

現場は大変でしょうが、私の思いを受けてこのような事業をしていただきましてありがたく思っております。

それでは次に、イングリッシュキャンプ事業ですが、1日ですかね。英語しか話さないということかな、日本語を使わなくて。

古賀生涯学習
課長

極力ということです。

ただ、最後のほうには、子どもたちはトイレに行っていけないということや英語で聞いていたということでした。

松下市長

私たちも負けないように勉強していかないと追いつかなくなる。はい。ありがとうございます。

次は、スポーツフェスタの関係、これも、委員さんたちも参加されたりですね、綱引きなんかで参加されたり、みなさんで盛り上げていただいています。昔のように運動会はかけっこが盛り上がるからかけっこをするといった話がいまだにあるのでございますが、なかなか選手がそろわないということで、子どもが少ない中で1学年に1人しかいないその方が足が速ければいいですが、足が遅かったらその子のところでみんな抜かれてしまい、もう絶対出たくない、そのような方もいらっしゃいますし。要するに、選手がそろわない。それでも、今は、校区まちづくり協議会がなんとかできつつありますので、校区全体のまとまりの中で昔のような、どうしてもかけっこは盛り上がりますので、運動会にしても、できる状況下であればまた昔のようなことに戻してもいいのかなという思いはあります。今のところはもう少し時間をいただきたい。この校区まちづくりがもう少し機能し始めたら、考えていきたいと思っております。

次は、日本体育大学の関係です。日体大と体育の協定を結んでいるのは、九州では中間市と長崎の島原市の2か所でございます。もうこれ以上増やさないということでございます。私も日体大とのお付き合いをずっとさせ

ていただいております、今度もオリンピックのメダリストとの交流が東京でございますので、声がかかってきておりますし、体操の田中理恵さんに来ていただいてトークショーさせていただきました。

増田教育長

今年もオリンピック選手を呼ぼうとしていたのですが、今年はオリンピックの年で日体大もそれどころではないということで、この事業が進まなかったのです。今回のオリンピックで大学生を含め多くのメダリストが誕生しましたので、声をかけてみようと考えております。とにかく子どもたちに夢を与えたいと思います。

松下市長

それと最後に、資料台帳の整理ということでございます。これもですね、中間市史の編纂をしたときにいろいろな資料をたくさん集めておりまして、それが図書館の裏側の方に積んであったのですが、大変貴重な資料等々もございますので、整理を2年かけて。

古賀生涯学習
課長

3年計画です。

松下市長

3年かかるくらいその資料が多くございます。その資料整理をして、必要な部分は、みなさん方に、市民の方に見ていただこうと思っております。

ざっとでございますが、新規事業等につきまして話をさせていただき、私の思いをお伝えいたしました。

以上のことで、何かお話があればどうぞ。今後活かしていきたいと思っておりますのでどうぞ。

増田教育長

市長、今新規事業については説明させていただきましたが、来年度の、これからの事業ということで、非常に厳しい財政状況であると教育委員会も十分理解しております。教育委員会では、役割を終えた事業につきましては極力スクラップをして対応していきたいと思いますが、あえて教育委員会として是非こういう形でやってもらいたいという事業が何点かございます。課長から説明させていただきますが、この他に教育委員会は大きな問題を抱えておまして、公民館等もできてもう40年近く経つということで、かなり老朽化しております。そして、事業もいろいろ生涯学習センターや婦人の家とかとも重複しているということで早急に検討していく必要があるかと思っております。

それともう1点、市民のみなさんからスポーツ施設に対する要望という

ものが非常に大きくなっております。グラウンドも今あまり使ってなくて草が生えています。そういう所ももったいないから使わせてくれというような、いろいろな要望もありますので、競技団体と調整し、少し整備も図りながら、市民の皆さんの要望に応えるようにやっていく必要があるかと、これも検討してまいりたいと思います。

それでは、課長から新規事業について、できるできないは別にして、教育委員会が考えていることを説明させます。財政課とも今からしっかりと調整していきますので、聞いていただきたいと思います。

田中教育総務
課長

それでは、教育総務課から提案させていただきたいと思います。小中学校の空調ですが、平成27年度、28年度にかけまして、普通教室、特別支援教室、図書室などに空調を配備させていただきました。

しかしながら、先ほど市長からお話ございましたように、特別教室にはまだ配備されておられません。現場からは、音楽室、理科室等の特別教室についても空調があれば本当に助かるということで声が上がっておりますので、平成30年度に向けまして事業を進めさせていただきたいと思えます。計画といたしましては、補助金を活用するため平成29年度に建築計画を提出し、補助金が決定すれば、平成30年度で工事をさせていただきたいと考えております。以上でございます。

片平学校教育
課長

続きまして学校教育課でございますが、現在、学力向上推進事業として、少人数学級指導、いわゆる35人学級を小学校5年生まで実施させていただいております。毎年1学年ずつ拡充させていただいておりますが、次年度につきましては、小学校6年生まで35人学級、少人数学級で指導していきたいと考えております。現在5クラスですが、来年度、現在の生徒数をみると1学級増えるというような状況でございます。ぜひこれを進めさせていただきたいと思えます。

古賀生涯学習
課長

はい。それでは生涯学習課からでございます。

事業名としまして、中間市文化部門大会派遣助成事業といたします。現在スポーツ大会の全国大会等への助成金はありますが、文化部門、特に、吹奏楽であったりとかそういう部門についての全国大会を対象とした補助金が現在中間市ではありませんので、この部分を新設してはどうかと思っております。具体的には、10名以上の団体で10万円、9名以下の団体については1名につき1万円ということです。

次に、先程、スポーツフェスタの中での市民スポーツ、アジャタの大会

でございますが、近い将来、この福岡県大会を中間市で実施できないかと考えております。アジャタの本部であります宮崎市に問い合わせたところ、それは可能ですよということでございました。中間市でアジャタを開催することにより、福岡県大会を開催することにより、他市からの多くの参加者を呼び、またPR等もできるということから、中間市の毎年の春のイベントということで実施していきたいと、近い将来していきたいと思っております。

次に、3つ目でございます。生涯学習課には社会教育部門に特化した社会教育主事がおられませんので、ぜひ社会教育主事の資格を持った方の配置をお願いしたいと思います。これにより、中・長期的な展望をもった生涯学習基本計画に添った事業が展開できるのではないかと思います。以上でございます。

衛藤委員

市長、よろしいですか。

松下市長

はい。

衛藤委員

特別教室へのいわゆる冷暖房、エアコンの設置についてです。教育委員会の行事で学校訪問といって、教育委員さんが学校を回っているのですが、その時に、エアコンが設置されて一応夏と冬を越しましたので、何か変化がありましたかということをお聞きしました。全部の学校に聞いたわけではありませんが、聞いたところによると、1つはですね、冬に風邪による学級閉鎖が減ったと話されておりました。ということは、快適に過ごしているから、寒暖の差がないから、学級閉鎖の数が減ったということだと思います。これは良いことだと思います。

それからもう1つは、授業の子どもたちの受け方が落ち着いているということです。プラスの面はよく分かったと。マイナスの面はというと、マイナスはありませんということです。となると、中学校も小学校もそうだと思いますが、特別教室を使うことが頻繁にあります。正規の時間割の中に特別教室が組み込まれていますから、やはり特別教室に行ったら暑い、寒いということでは、子どもの学習効果にあるいは教師の指導力の部分にも影響してくると思っておりますので、ぜひお力添えいただけたらということです。

松下市長

はい。私も、子どもがあまりイライラしないようになったという話を伺っております。

新規事業、教育長も言われたように、大変厳しい状況でございますので、

スクラップアンドビルドも、その積み上げではなくて、崩してもらったところも大いに検討してもらわないと大変厳しい状況でございますので、そういう面ではご理解いただきたいと思っております。

なぜこのような事業を取り上げるのですかという、いろいろ市の方のお話を聞かれるかもしれませんが、今言うように、今ある上に新しい事業をどんどん積み重ねていってというのは、無理でございますので、協議しながら、スクラップの方もご理解いただきたいと思っております。

次は、その他ですが、何かございますか。

増田教育長

市長。もう一点、学力の状況と体力テストの結果、それからいじめ等について報告をしたいと思います。

松下市長

はい。どうぞ。

片平学校教育
課長

それでは、私から説明させていただきます。まず、全国学力・学習状況調査の説明でございますが、お手元の資料のグラフをご覧ください。

中間市における結果は、小学校6年生、中学校3年生ともに、全国平均正答率を若干下回っている状況でございます。しかし、調査開始の平成19年度からの推移をみますと、全国の差は確実に縮まっております。

今回の調査で出題された問題の平均正答率でみたとき、全国と本市の差は、小学校では、0.4問以内でございます。おおむね全国平均レベルまで到達しつつあります。中学校では、数学A以外は1問程度の差となっております。学校等の取り組みの成果が現れております。しかし、数学Aにつきましては、3.6問ございますが約3問差があるため、基礎的、基本的学力の定着を今後図る取組が必要であると考えております。各教科領域において、特に課題がみられる分については、資料のとおりですが、この課題については、本市だけの課題でなく、全国的に平均正答率が低かった問いでございます。今後は、国・県から示される対策に加え、本市の児童・生徒の実態に応じた取組を推進してまいりたいと考えております。

続きまして、体力テストの結果についてです。横の表がついている資料でございます。小学校と中学校1枚ずつ資料がございます。

まず、小学校でございますが、調査対象が5年生になっております。平成27年度、28年度を比較しますと、全体的には向上しております。特に、男女の上体起こしや瞬発力を測る反復横跳びなどが向上してきております。反復横跳びにつきましては、継続的に取り組んでいる学校も多く、その成果が現れていると考えます。課題としましては、立ち幅跳びやソフ

トボール投げがあげられます。遊びの中でも、投げる、跳ぶという動作の減少等の課題も指摘されております。各学校の取組みの中でそのような経験をさせていく必要があると考えております。

次に、中学校でございます。こちらは2年生が調査対象となっております。握力、上体起こし等、筋力の向上がみられます。また、中学生においては特に、女子の記録の伸びが目立ちます。女子の運動への意欲向上を重点的に挙げている学校もあり、各学校の取組みの成果が上がってきていると考えております。課題といたしましては、小学校と同じように立ち幅跳びがあげられます。男女とも全国を下回り、昨年度よりも下降しております。また、20mシャトルランにつきましても、全国平均との差が大きく、記録の向上が求められます。課題を絞って、継続的な取組みを今後進めていきたいと考えております。以上が、学力と体力でございます。

もう1枚、その次のページに、いじめ・不登校・暴力行為の推移ということで資料をつけさせていただいております。県や国のデータにつきましては、平成27年度の問題行動件数は公表されておられませんので、県におきましては平成26年度までのデータでございますが、いじめ・暴力行為について、若干の生徒がこういった問題行動を起こしております。また、30日以上欠席の不登校も各学校数名います。今現在も、中学校で暴力等またはいやがらせ等で、いじめと認識のもとそれを解決する努力をしているところでございます。特にいじめにつきましては、しっかり認知して、いじめであるんだという認識のもと、早期の解決というところで先生方に指導をお願いしているところです。いじめの件数が多い少ないということではなく、いじめを発見し、そして、しっかり解決することが非常に大事なことであるということを学校に対し指導しているところでございます。以上でございます。

松下市長

はい。体育のシャトルランは、どのようなものかな。

増田教育長

20mを音楽(リズム)に合わせてだんだんペースを上げて走っていきます。昔はありませんでした。例えば、20mを10秒で走って、その次折り返す時はペースを上げ、8秒で走るといった形で、リタイアしたらそこで終わりというものです。昔は1500m走でしたが、今はわかりやすいということで、音楽(リズム)に合わせて20m間隔を走ります。

松下市長

それといじめでございますが、今言ったように、数を減らそうということで、隠したりなど動きがあるわけでございますが、そういうことではな

くて、数はいくら多くてもそれに対するしっかりとした対応が本当に重要なことだと思います。これも隠さずに数字をしっかり出してもらってしっかり対応して、いろいろな話を聞きますが、みなさん方、先生方には本当に素早い対応をしていただきまして、私自身もありがたいなという思いがあります。おかげで、大きな問題になった事案等ございませんし、悲惨な事件、自殺等も含めまして、中間市ではございません。そういうことは絶対あったらいけないという思いで、みなさま方にはお願いしているところでございますが、数が増えたから非難されるとかは全くありませんので、しっかり本当のことを言って、しっかりした対応をしていただければ私もありがたいなという思いでございます。よろしくお願ひします。

今まで説明がございましたその中で何かあれば、ご意見をお願いしたいと思ひます。どうぞ。

衛藤委員

実は先ほど、学校訪問のときに感じたことでございますが、今市長のご挨拶の中で、子どもが頑張っているという話をされていましたが、教師も学校も非常に頑張っています。それはどの部分で頑張っているかといったら、昔と違って、いろいろなところの研究委嘱を受けているわけです。それを受けその成果を発表するというので、毎年どこかの学校が発表しているというのが中間市の状況なのですが、そうすると外部からいろいろお客さんが見えになります。

学校訪問で感じたことは、学校の外壁、モルタル塗装がされていますよね。モルタル塗装が結構黒ずんでいます。だから、あれを高速洗浄機か何かで洗うと、結構汚れが落ちるのではないかと。それだけでも大分見栄えが違ふのではないかという気がします。塗るとなると、膨大な予算がかかるからですね。それは無理かと思ひますので、高速洗浄すれば、結構白くなると思ひます。

松下市長

中間市のこの庁舎も、もう黒ずんでたれたりしているから、これは1回洗いたいなという思ひはあるが、どのくらいお金がかかるか分かりません。

衛藤委員

特に、南中は黒ずんでみえます。だから、白が黒になっているから、汚れているなととても感じます。それ以外で、特に学校訪問の時に感じたこととして、学校に来校者が増えてきたしですね。今開かれた学校づくりということで、地域の人たちもどんどん学校に入ってきていますから。より良い環境で子どもたちに勉強させるというのは、外壁もそうだし、実は、内壁も管理棟は結構きれいですよね。ところが、児童・生徒がいる棟階は、

自然に剥げ落ちたみたいになっています。

松下市長

耐震工事をした時に、内壁やら塗り替えたりしていないのかね。

田中教育総務
課長

はい。耐震工事では内壁はしておりません。

松下市長

教室の中でもわりとひびが目につく部分があるが、耐震化工事の時にそういうところも補修するのかなと思っていたが。そこまでしてないのかね。

田中教育総務
課長

はい。倒れないための補強だけでございます。

衛藤委員

それともう1つは、市長、今回、少年の主張大会にお見えになりましたよね。その時に、中学3年生、2年生等が主張しますよね。それとは別に、人権推進課から人権作文というものが広報紙に毎月載っていますが、それは違った角度から主張している部分がたくさんあります。親からみれば自分の子どもがこんなに主張できるのかというふうな、子どもに対する親の見方がそれを見れば変わると思うのです。だから、保護者の方にそれを情報として提供すると、中学生だけでも結構ですので。せっかく素晴らしいことをやっているのですから、どうにか親に知ってもらうことができないものかと。それにはもちろん主張者の了解その他が必要かと思いますが、そう感じております。

松下市長

一度、外壁の洗浄を試算してみて。

田中教育総務
課長

はい。わかりました。

松下市長

他にございませんか。なければ、これで終わりとさせていただきます。お疲れ様でございました。

濱田教育部長

どうもありがとうございました。

それでは、これもちまして、平成28年度中間市総合教育会議を閉会致します。どうもお疲れ様でした。

[閉会時刻：午前14時55分]